

# 熱中と依存の境界線

京都大学大学院医学研究科  
脳病態生理学講座(精神医学)  
村井俊哉

京都大学札幌講演会

平成22年8月31日

「依存学」でより豊かな未来を

HOME

依存学推進  
協議会とは

入会案内

活動情報

プレス

お問い合わせ

# 従来の依存症

「物質依存」

アルコール依存や薬物乱用

# プロセス依存

携帯電話、インターネット、ギャンブル…

適度な熱中

健康と病気の境界は？

精神科の診断基準が変わる・・・

ABC-Websiteより, 2010.2.10放映

新しい基準で病名に含まれるものと含まれないもの

ギャンブル依存…………○

インターネット依存…………×



# 「インターネット依存」は病気か？

- 単なる熱中か依存症か？

インターネット依存は、精神科の病気なのか、そうでないのか？

Lancet 2000より

Netaddiction.com

20項目のセルフ・チェック

2007年のAMAからAPAへの意見。

「ビデオ・ゲームは、他の深刻な精神疾患  
ほどの深刻性はない。」

インターネット・カフェでの心肺障害での10名の死亡、ゲームと関連した殺人事件によって、韓国は研究がこの分野の研究を大きく推進することになった。

American Journal of Psychiatryに掲載された意見。  
「インターネット依存症を診断基準に加えよ！」

New York Timesの  
記事より

インターネットの過剰使用に危険があるという証拠は一切ない、という見解。

Sara Kiesler, Carnegie Mellon Univ.。

- 病気の定義は……

意見の異なる専門家の間での妥協の産物であり、恣意的な側面がある。

しかし、いったん定義されると、それは単なる言葉の問題ではなくなる。

新しい病名がつけられれば、製薬会社は、その病名に適応症のある新しい薬の販売を目指す。

医師はその病気に対して薬を処方してみようと思う。

そして、その病名に自分があてはまることに気づいた人は、その薬を試してみようと思う。

また、ある病名が廃止されれば、その症状で病院へ行っても、保険診療は受けられなくなるし、後遺症に対する保障も受けられなくなる。

- 病気と健康の間に線引きすることの限界を認識しておくことは重要であるが、

この線引き作業(科学)の中からは、人間の健康についての多くのことが明らかになってくると思う。



# 論争の中からみえてくるもの

- 事態は放置しておいてよいものではない。では、インターネットを禁止すればよいのか？  
→もちろんそうではない

人は何かに依存(熱中)する。

→スポーツ観戦依存、テレビ依存、仕事依存、恋愛依存、人間依存、、、、

人が依存に陥る可能性のあるものは、価値があり、すぐれたものである。  
(つまらないものには依存は生じない)  
つまり、人や社会を元気にするものである。

- 依存症と熱中は紙一重！！

# 依存（熱中）の対極にあるものは？

- まず、依存（熱中）の対極にあるものを考えてみよう。
- 「アパシー」と呼ばれる奇妙な症状。
- 脳損傷のあと、病院や家庭で、リハビリテーション、職業復帰への準備、余暇の楽しみなどに熱が入らず、1日をぼんやりと無為に過ごす傾向の人たちがいる。

# 感情がわいてこなくなった男性

(上田ほか, 2006)

53歳時に交通外傷で前頭葉を損傷した男性である。

退院後、人柄が変わってしまったことに気づかれた。

元来性格は内向的な方だが一人で作業するような趣味(日曜大工・ピアノ・水泳など)はたくさんあった。

自己主張は強いほうで夫婦喧嘩は頻繁であった。

事故後は、以前は楽しみにしていた日曜大工などは、まったくなくなり、活動性の低下が顕著であった。

不思議なことに、以前であれば緊張して失敗しかねなかったような場面でも、特に緊張せずによく処理できるようになっていた。

# 感情がわいてこなくなった男性（続き）

本人によると、「全ての事がおもしろくない」、「以前と違って、対人場面での緊張は減っている」、「職場では孤立しているように思うがあまり気にならない」とのこと。

一方で妻によると、「以前と違って、いらだつことは減っているみたい」だが「感情が平坦で、何事ものれんに腕押しのような状態」とのこと。

つまり日常生活のさまざまな刺激に対する感情が、それが喜びであれ不安であれ非常に希薄になっていると解釈された。

このような状態に対する苦悩感は全く見られず、自らの感情の平板さを、時には苦笑いを浮かべて報告するなど、自身の状態に対して他人事のように接するのであった。

嗅覚障害、WAIS-R、IQ=132、WMS-R、MQ=93。

報酬を求めることは  
人間の性である。

報酬の認識

(ドパミン神経系)

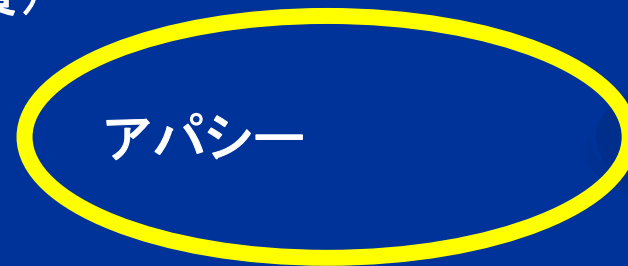


依存

熱中

目標へと方向づけられた行動

(前頭前皮質)



アパシー

- 依存症を、健康な熱中との連続体で考える視点

- 依存(熱中):報酬を求める行動  
→人間の活力の源

報酬の認識

(ドパミン神経系)

依存

熱中

目標に向かう行動

(前頭前皮質)

アパシー

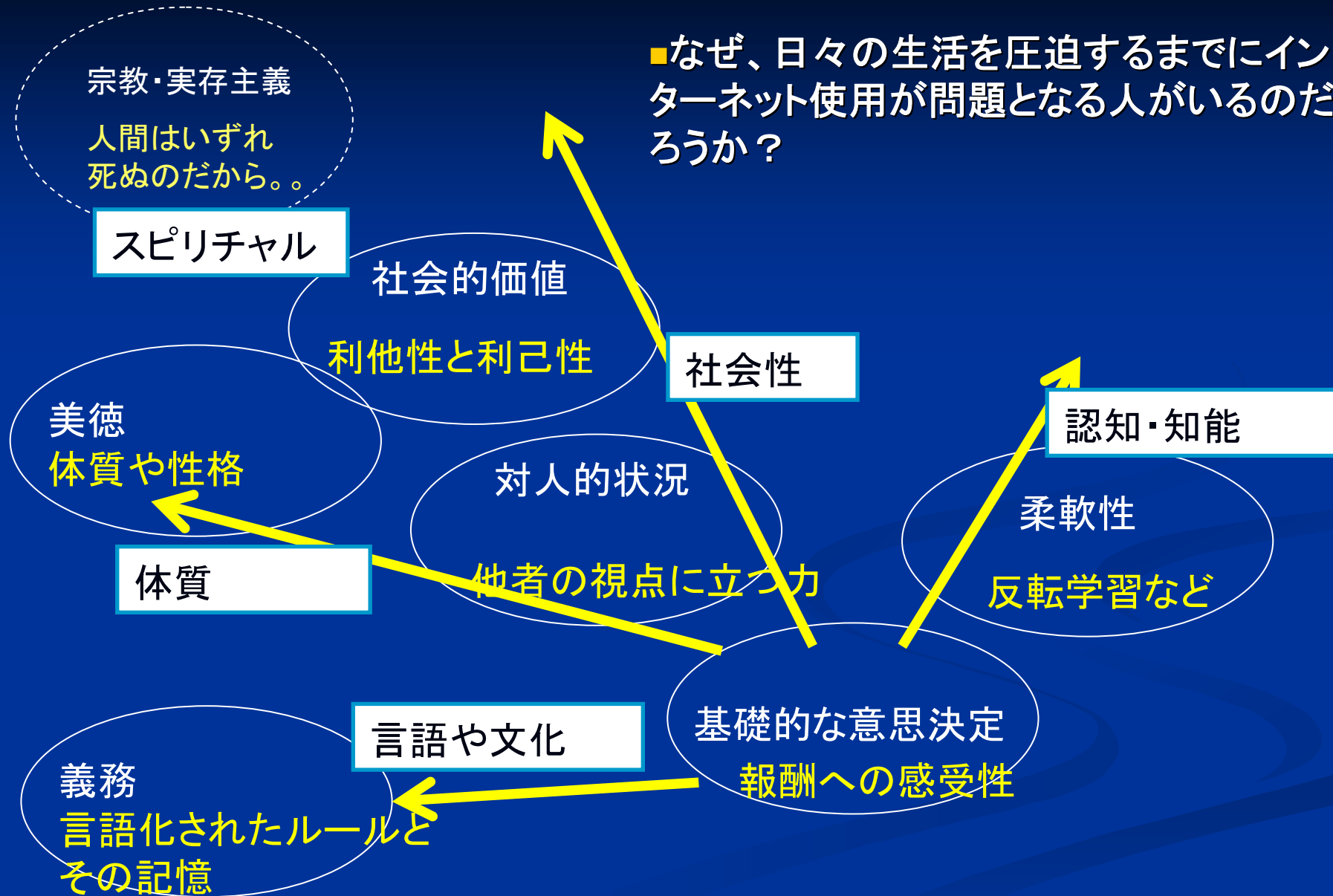
一方で、病的レベルと健康なレベルを分かつ指標の探求も必要



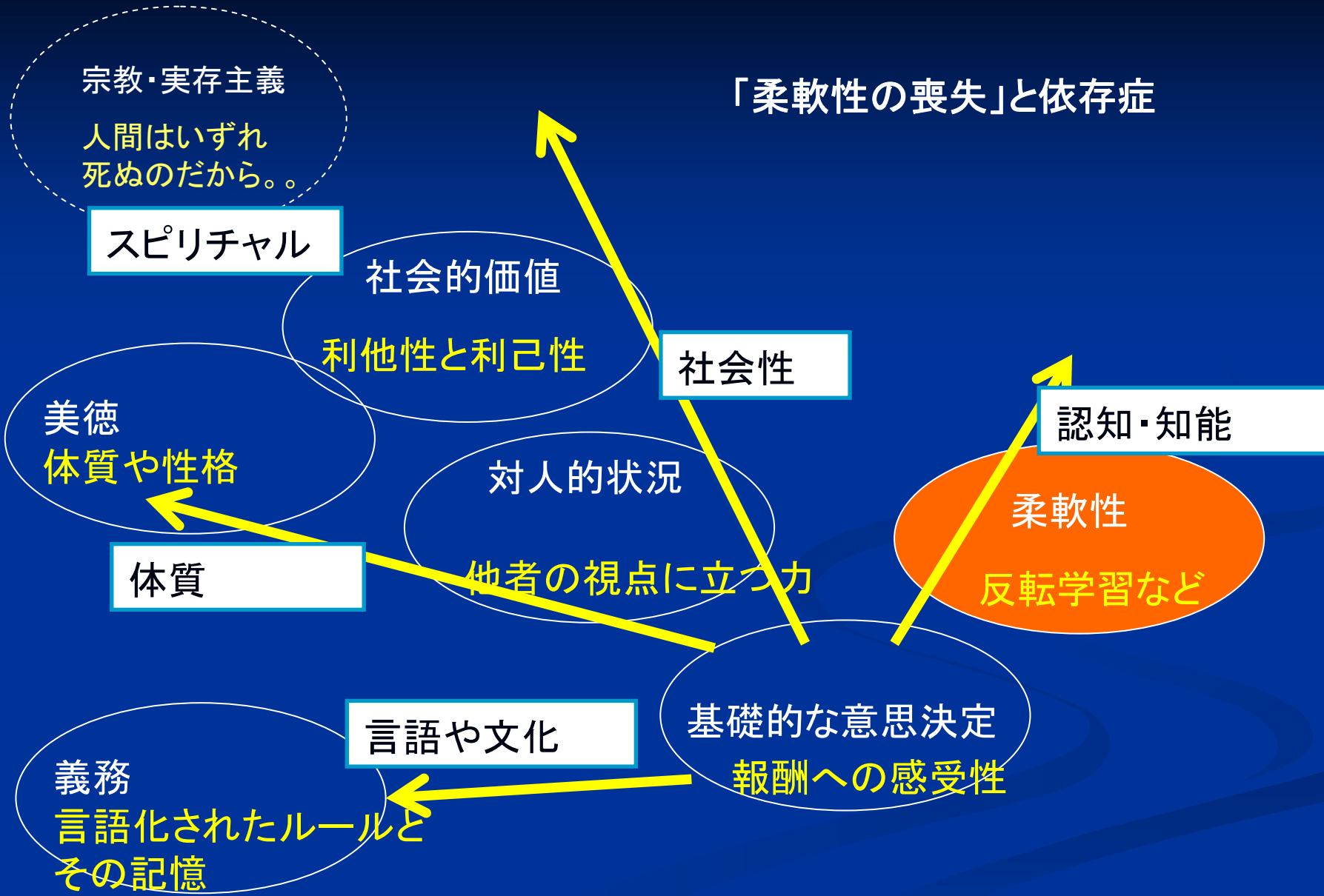
# 健康な熱中と病的な依存

# 「人間の行動は多様な因子で決まる」

■なぜ、日々の生活を圧迫するまでにインターネット使用が問題となる人がいるのだろうか？



# 「柔軟性の喪失」と依存症



「失敗から学ぶことができること」は、思考の柔軟さである。

- 29歳の男性。19歳の時バイク事故で頭部外傷。
- 外傷のあと、金銭の管理ができなくなり、多額の借金をするようになった。
- 高額なバーでの飲酒などで、多額の支払いをすることを繰り返した。そのようなことをした後にはひどく後悔をし、自分にそのような問題があることに気づきながら、そのような行動をやめることができなかった。

# Iowa Gambling Task





Card Selection



Card Presentation



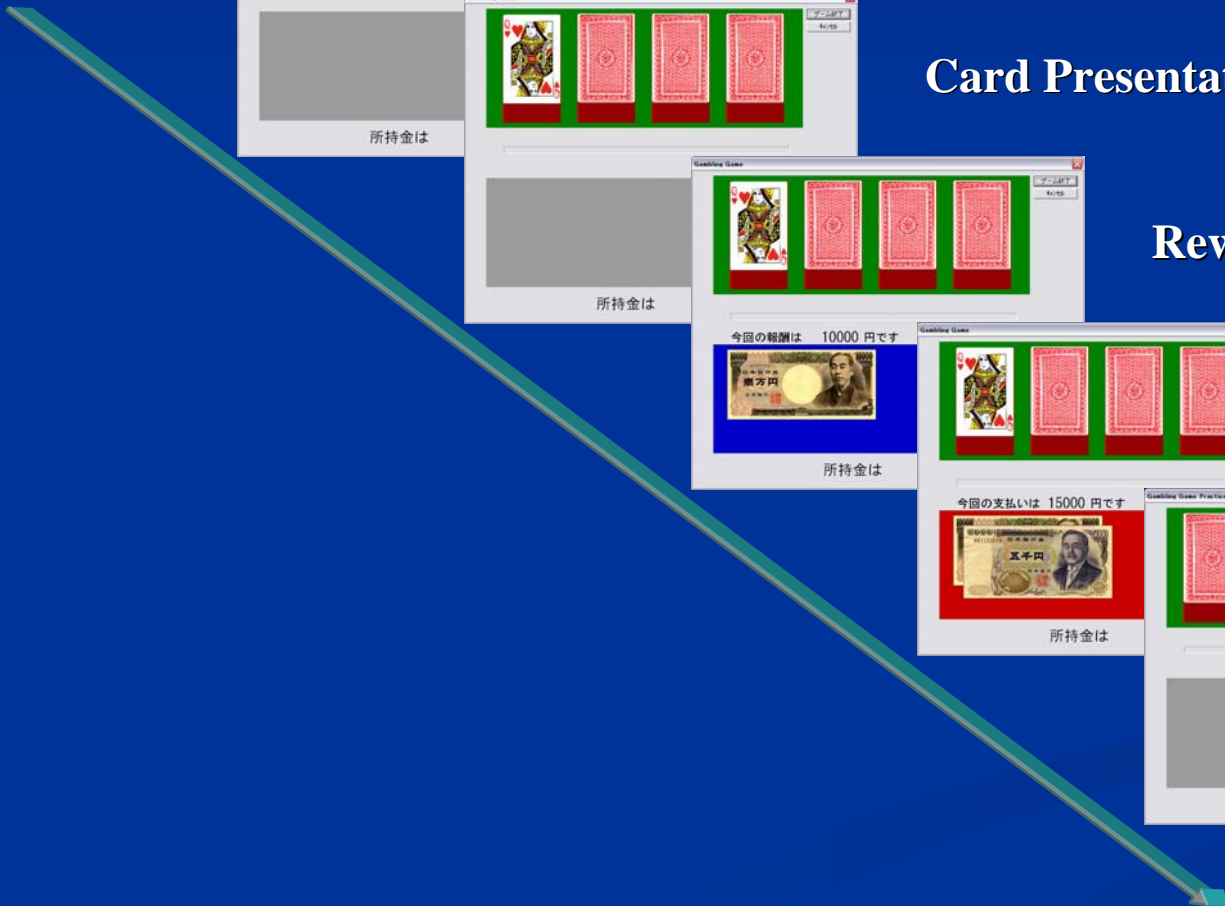
Reward Presentation



Penalty Presentation



Rest



報酬  
罰金

不利な山

Gambling Game

今回の支払いは 30000 円です

所持金は 145000 円です

Gambling Game

今回の支払いは125000 円です

所持金は 115000 円です

有利な山

Gambling Game

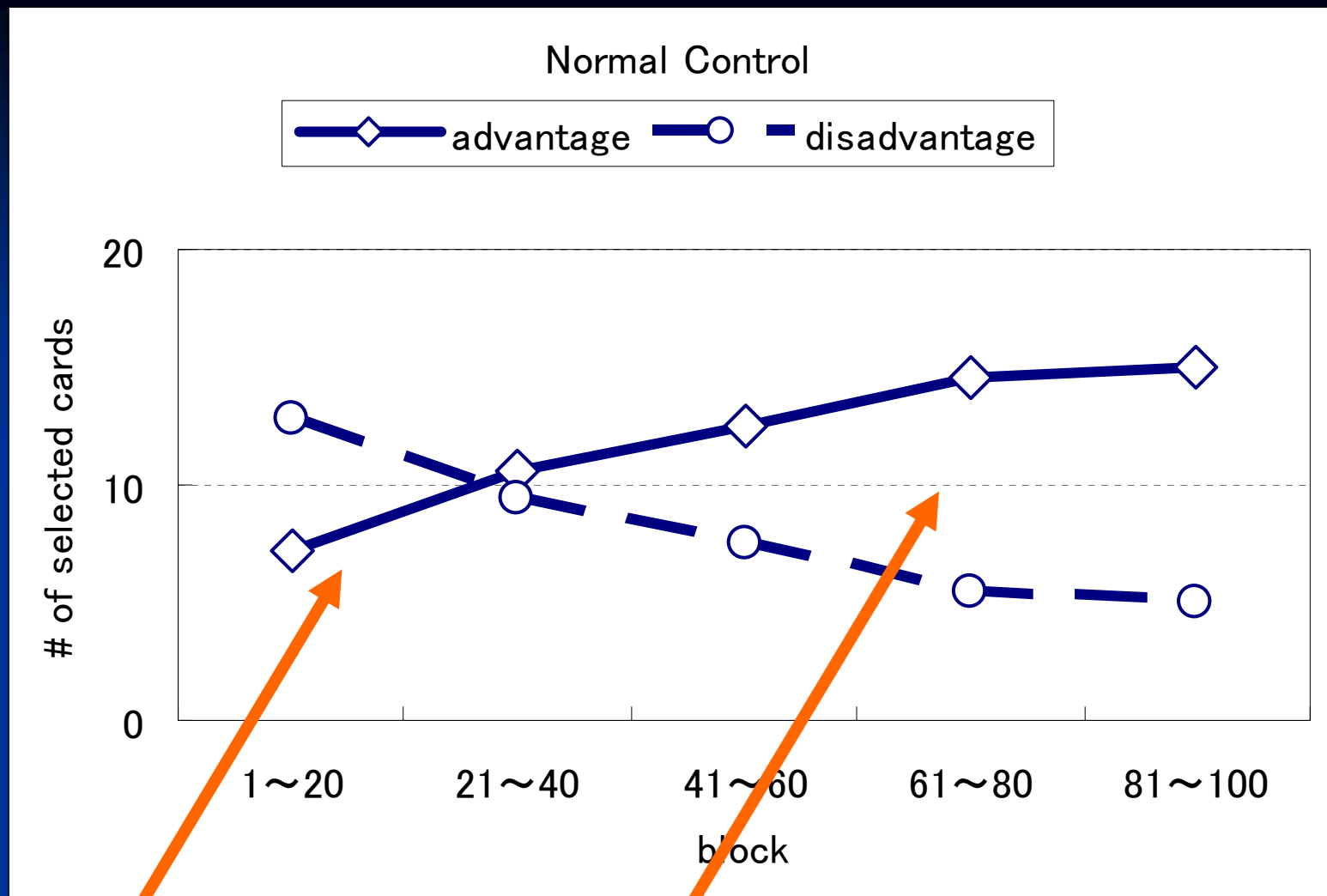
今回の支払いは 2500 円です

所持金は 217500 円です

Gambling Game

今回の支払いは 5000 円です

所持金は 135000 円です



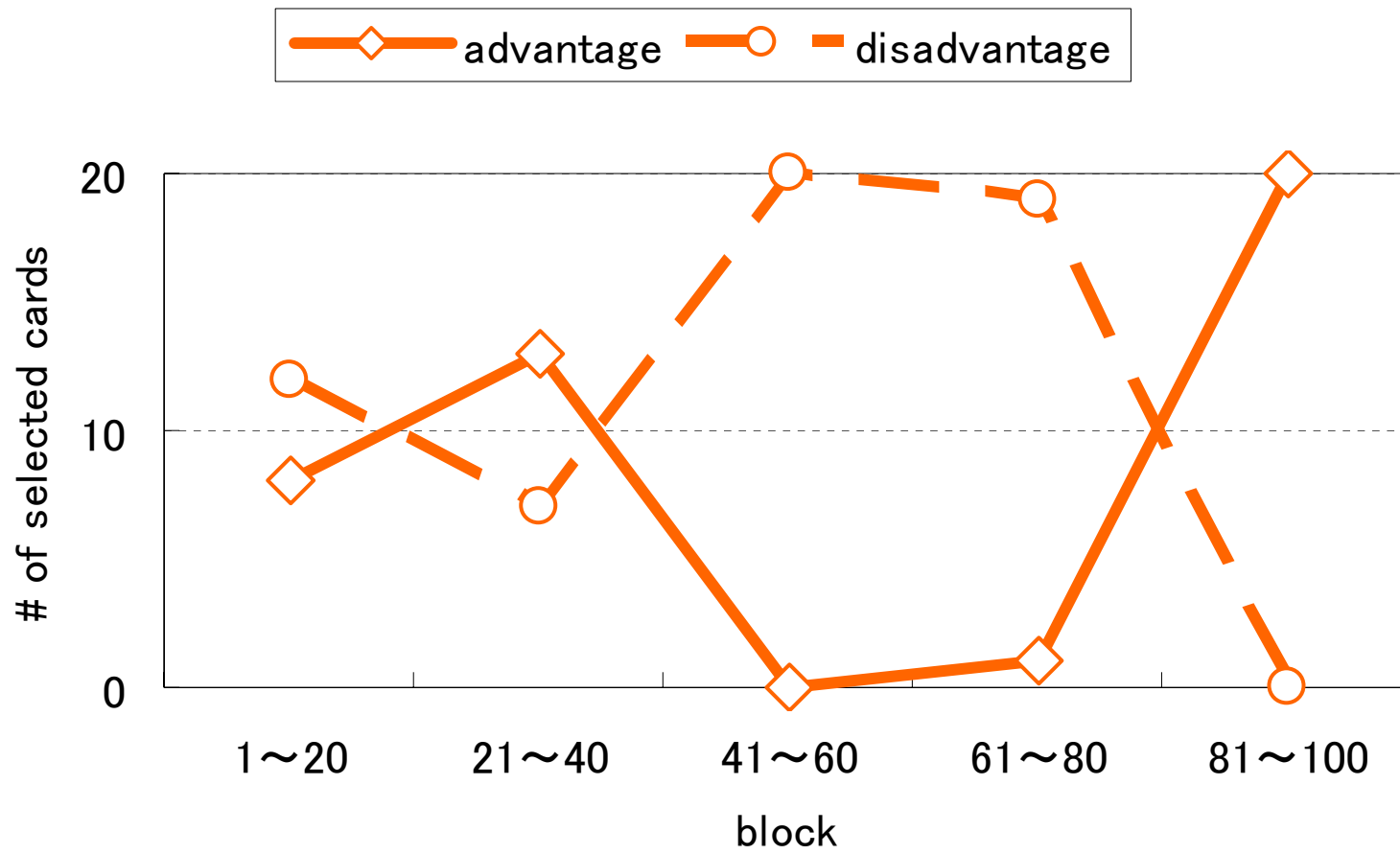
一見もうけの多  
そうな山を選択  
している。

思いがけない  
罰金が少なく長  
期的には得に  
なる山を選択。

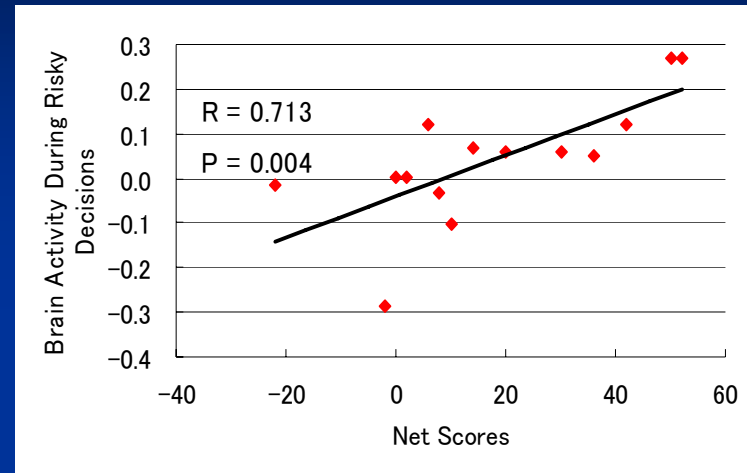
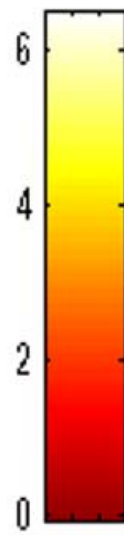
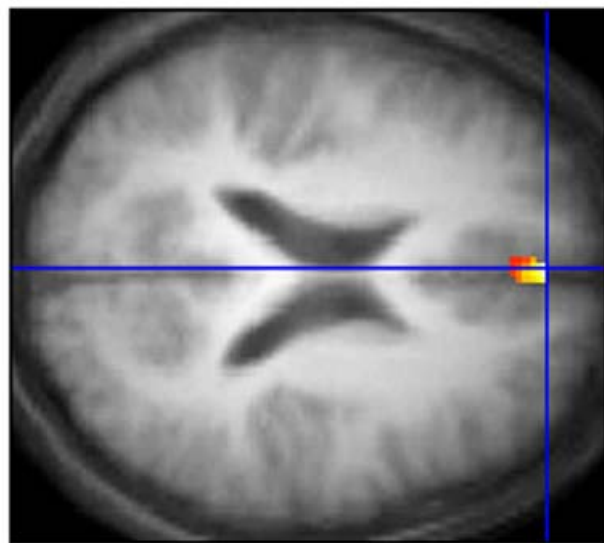
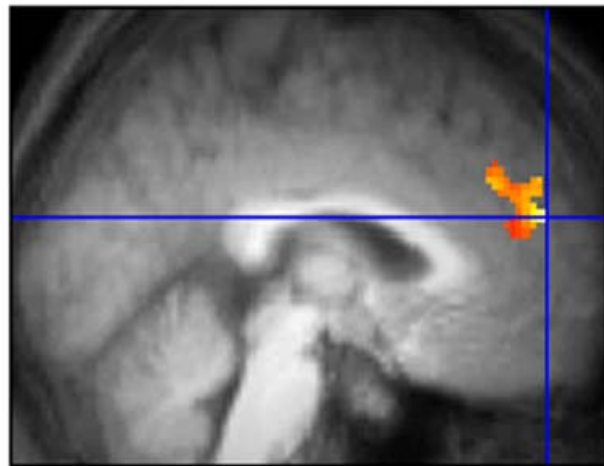
最初はうまくいった行動  
がうまくいかなかったとき、  
人は自分の行動を柔軟に変  
化させる。「反転学習」



U.M.



# 柔軟な反転学習に関する脳の場所



Fukui et al., Neuroimage 2005

「柔軟性」は、熱中と依存症を隔てるひとつの因子かもしれない。

失敗を重ねたときに行動を変化(反転)させることができるかどうか。

- 「柔軟性」にかかわる脳の場所

前頭葉のいくつかの領域 (ACC、MPFC、OFC)

- 柔軟な脳を持っていれば、病的な依存症にはおちいらないといえるだろうか？

# 依存行動随伴問題



依存・熱中している対象をいかに  
用いるか？

## ■ ネット関連の犯罪

- 健全な熱中と病的な依存を分かつひとつの基準は、依存(熱中)そのものではなく、そこから派生する行為の質にかかわる。

## 「精神病質(サイコパス)」 と前頭葉

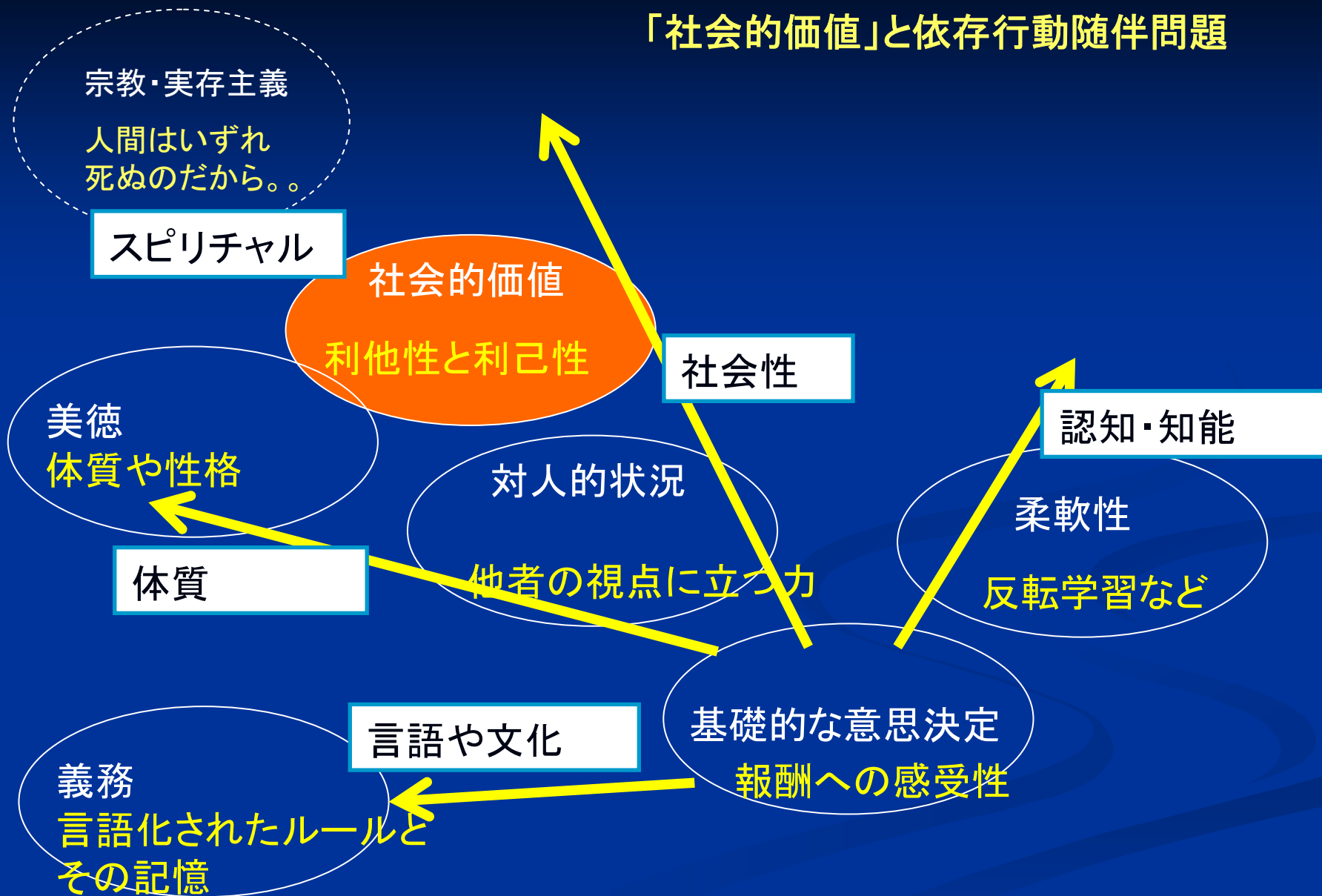
幼少期に前頭葉に傷を負った人の中には、他者の喜びや他者の痛みが理解できず、他者を傷つけるような行動を繰り返し、そういうことを続けても、反省したり後悔したり、という気持ちがわいてこない人たちがいる。

(Anderson et al.)



- 他者配慮、思いやりの気持ちの有無は、健康な熱中と病的な依存を分かつひとつの基準となりそうだ。

# 「社会的価値」と依存行動随伴問題



社会的価値づけ(利己性・利他性)を決める脳の場所

前頭葉のいくつかの領域、島皮質

- 生まれながらに、あるいは幼児期の教育で、依存症になりやすい人、そうでない人はいるだろうか？

- 人生において何を重んじるかという人間の性格は、生まれながら、あるいは、幼少期の養育で決まる（勇敢さ、勤勉さなど）
- 戦場で勇敢に戦う兵士は、勝ち負けの損得計算をしているわけではなく、単に、彼らが勇敢だから、という理由で、勇敢に戦っているということがある。  
(Ghaemi, 2003)

脳内のセロトニン神経系の機能にかかわる遺伝子  
とインターネット過剰使用との関連の報告。

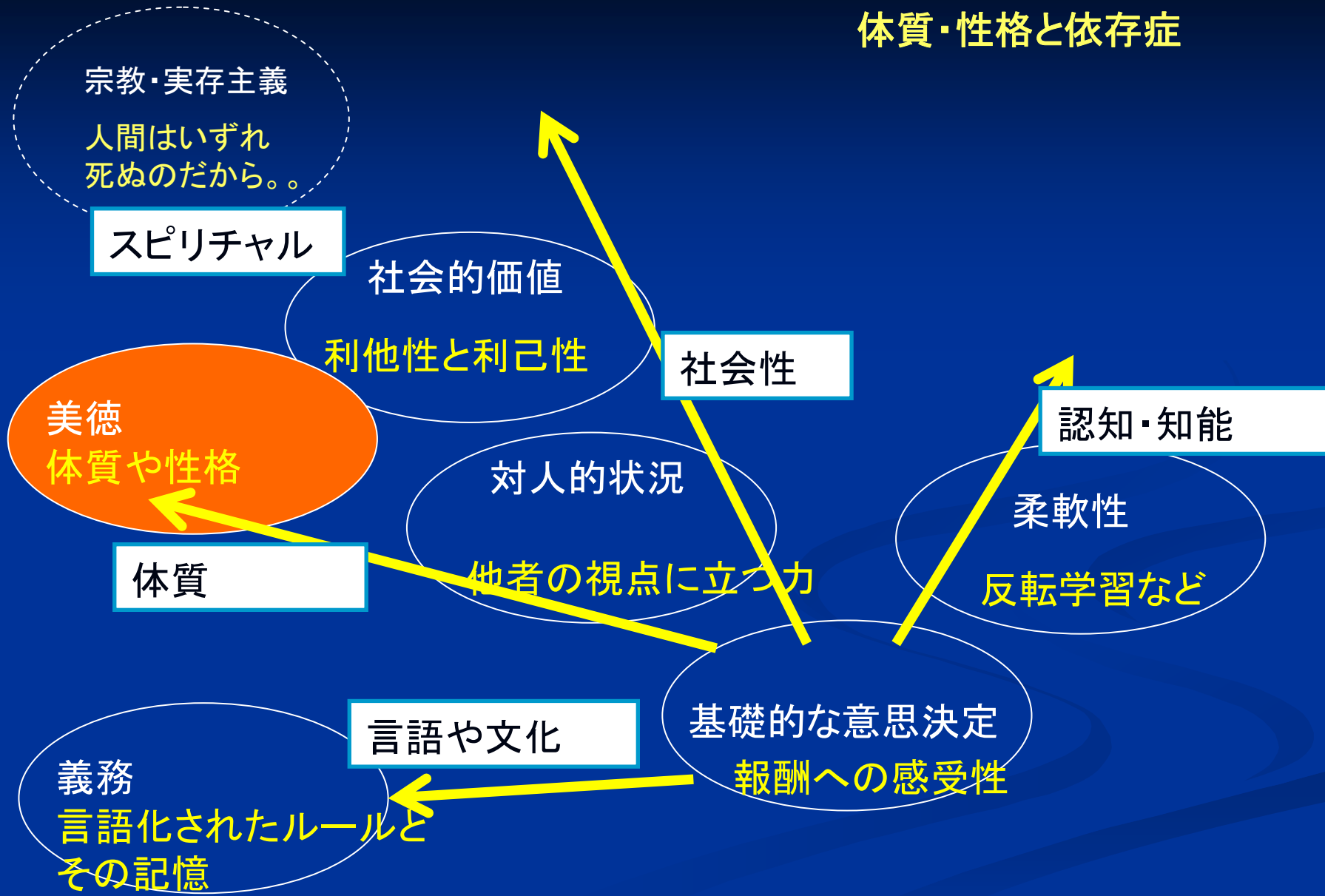
Lee et al., J Affective Dis, 2008

不安が強く、悲観的、内気な気質との関連を考察

「依存症は、(遺伝で決まるとまではいえないが)、遺伝が影響を与える。」

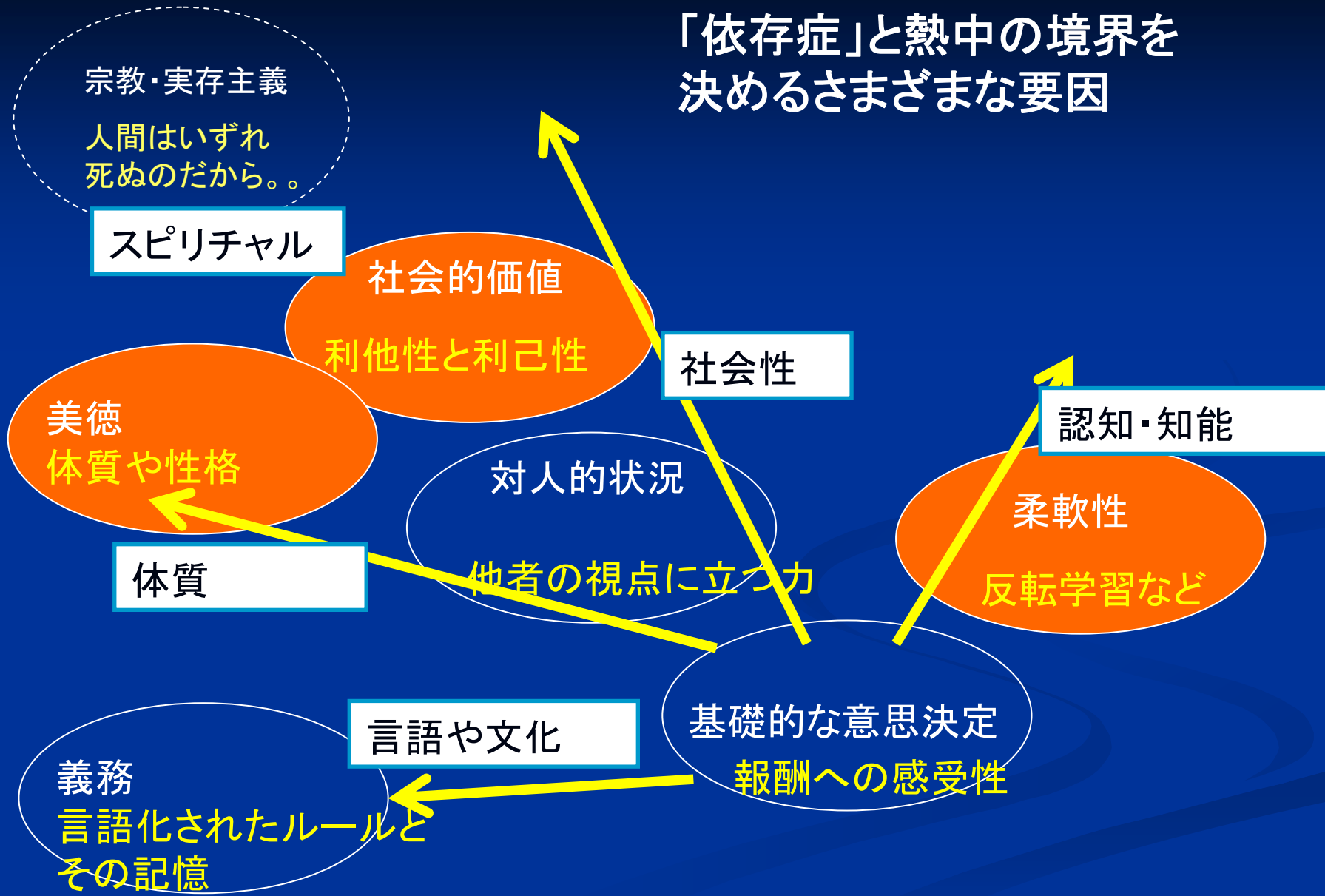
- 生まれながらの性格、発達の早期に決定される気質も、依存症へのなりやすさに影響する。

# 体質・性格と依存症





# 「依存症」と熱中の境界を 決めるさまざまな要因



# 治療に対してのヒント

様々な角度からの治療の可能性が考えられる。

セロトニン系薬物による薬物療法、幼少期の教育

家庭内問題を扱う心理療法

社会的価値

美德の理論

発達障害の合併を考慮する視点

行動療法や薬物療法

対人的文脈

柔軟性

義務

基礎的な意思決定

法律や教育

ドパミン系薬物による薬物療法、行動療法

一人の人間の中での異なる視点の葛藤

“ほとんどの人は心の中に複雑な価値観を持っている。”

- “自分は楽しければそれでいいんだよ、だからギャンブルは絶対やめないよ。”  
(その場の「報酬」という価値観)
- “家族には申し訳ないという気持ちが強くて。。。。”  
(他者配慮・利他性という価値観)
- “楽しいか楽しくないかではなくて、賭け事にのめりこむのは悪いことだよ。”  
(義務感、文化によって方向づけられた道德観・倫理観)

## ■ 「動機づけ面接」という面接技法

(William R Miller, and Stephen Rollnick)

異なる価値基準がひとりの人間の中で矛盾して存在し、人が立ち往生になっているときに、本人の意思を尊重しながら、それらを和解させ、自らが一定の方向を選び取ることを支援していく。

矛盾する価値観の中で、  
自らが和解点を見出す。

社会的価値

美德の理論

対人的文脈

柔軟性

異なる価値観が一人の人の中  
で矛盾して存在しているときは、  
それらを和解させる

基礎的な意思決定

義務

## ■ 依存と熱中の境界は？

- 柔軟性
- 向社会性(利他性)
- 気質・性格
- 自己コントロール(言語による)
- .....

【日 時】  
2010年3月14日(日) 13:00～17:30(受付開始:12:30～)

【会 場】  
京都大学 百周年時計台記念館2階 国際交流ホール

(京都市左京区吉田本町 京都大学本部構内)

◎定員:300名(事前申込みによる先着順)と定員に達し次第締め切らせていただきます。

◎参加料:無料



# 依存学ことはじめ

はまる人生、はまり過ぎない人生、人生の楽しみ方

【プログラム】

- 「はじめに」  
船橋 新太郎 (京都大学こころの未来研究センター)
- 「依存と集中力、そして楽しい人生  
—達人達は皆、何かに「はまって」いた—」  
谷岡 一郎 (筑波大学)
- 「熱中と依存の境界線」  
村井 俊哉 (京都大学大学院医学研究科)
- 「依存の脳を観る」  
澤本 伸克 (京都大学大学院医学研究科)
- 討論「依存学とは」  
谷岡 一郎、村井 俊哉、福山 秀典、川本 八郎、栗田 朗、  
坂田 和直、澤本 伸克、船橋 新太郎、藤見 博光 (司会)
- 「依存学ことはじめ」  
西村 周三 (京都大学理事・副学長)

申込み方法:  
電子メールまたはFAXでお申し込み下さい。  
お名前・フリガナ・年齢・連絡先(メールアドレス又はFAX番号)をご記入の上、  
3月9日(金)までにお申し込み下さい。

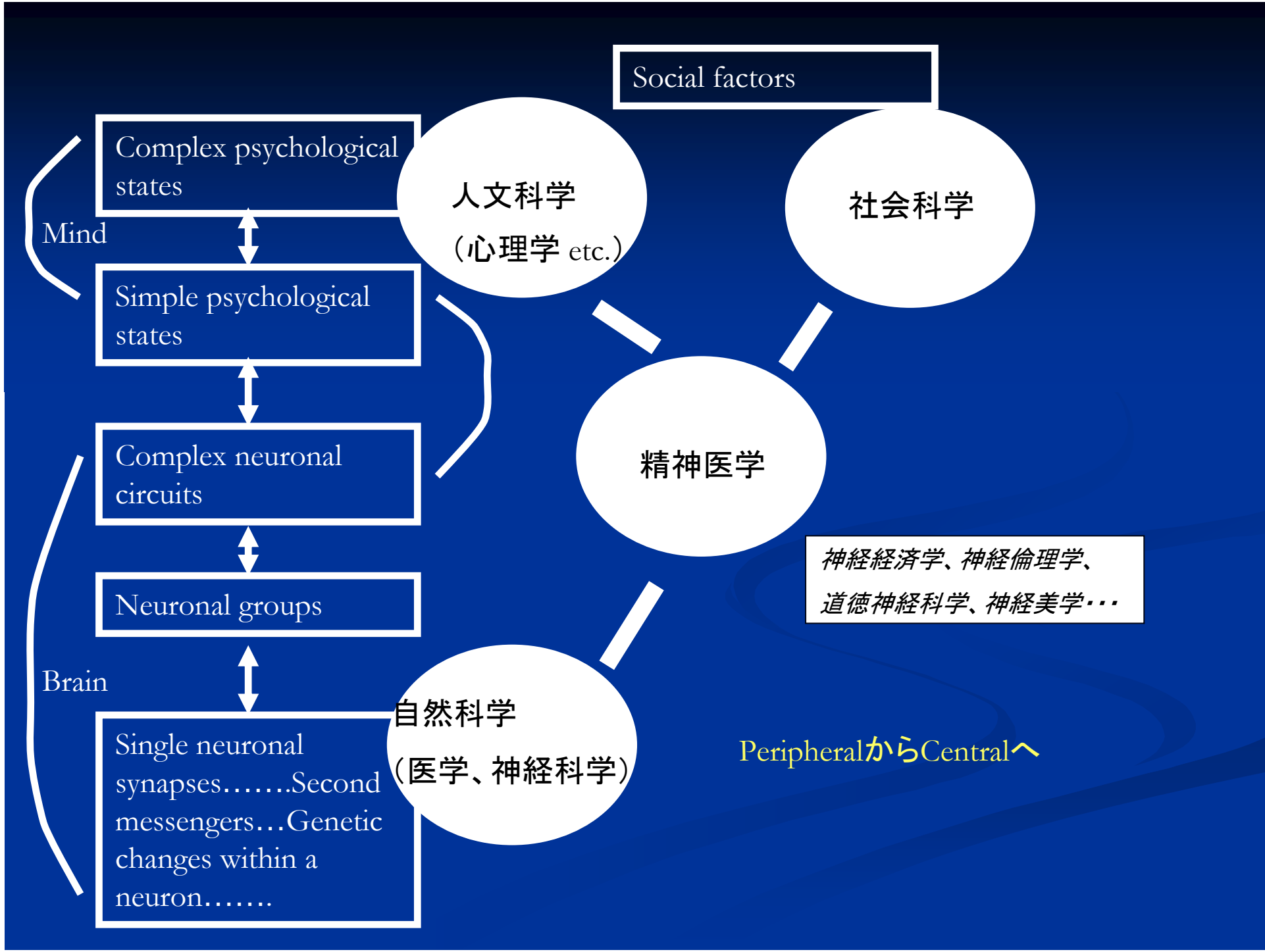
主催：京都大学こころの未来研究センター

連携研究プロジェクト「依存症に関する総合的研究」

連絡先:こころの未来研究センター・高田 Fax:075-753-9684 E-mail: takata-n@educ.kyoto-u.ac.jp



- 「健康な熱中」も「病的な依存」も複合的な因子で決まる。
- 「依存学」の推進には、多様な分野の専門家の参入が必要。
  - 基礎生物学、脳科学、社会学、教育学、経済学、精神医学、心理療法……

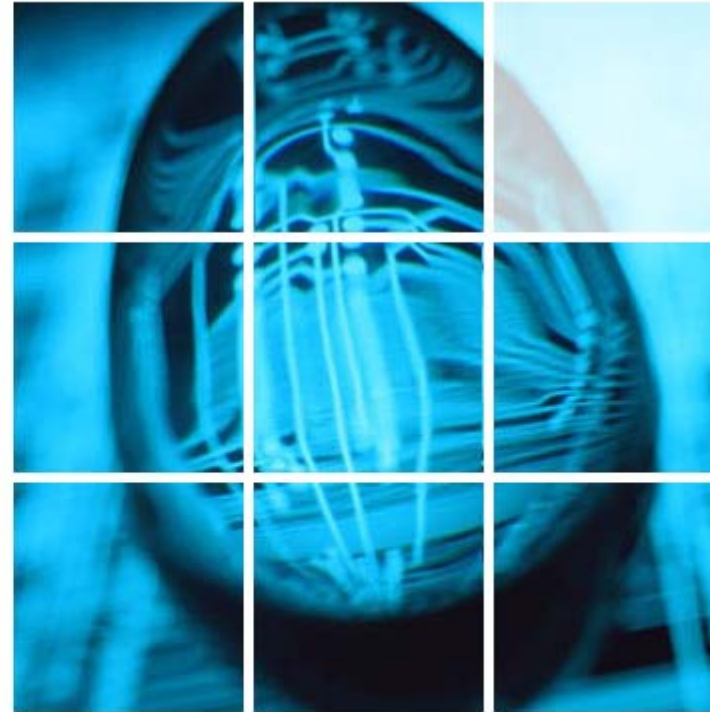


▶ ENGLISH

京都大学  
医学部  
附属病院  
精神科神経科

Psychiatry

Kyoto University Hospital



Copyright by Kyoto University. All Rights Reserved.

